

小中合同地域学校保健委員会の報告

令和7年9月3日 高萩北小中学校

去る8月22日(金)高萩北小中学校合同で、地域学校保健委員会を開催しました。

1. 出席者

小中 PTA、学校運営協議員、小中学校教員

2. 開会のことば 中学校PTA会長 丹尾様より

不登校数 34.6 万人(文科省)、過去最高とあり驚いている。職場でも心の病で長期休暇の方が…。心と体のバランスが取れず不登校の現実があるのかと思う。今日の講義を参考にしたい。

3. あいさつ 小学校校長より

児童生徒から「学校に行きたくない」と言われたら保護者も教員も心配になる。様々な立場から児童生徒に寄り添い、元気な心に戻してあげるために信頼できる大人が1人でも多く北小中にあることが子どもの心の安定につながる。本日の講演で大人が共通理解を図り、輝き多い北っ子を育ていけたら思う。

4. 講演



「学校に行きたくないといわれたら…」

学校・家庭・地域ができること」

講師 日高市教育センター臨床心理士 藤野雄教先生

講師 藤野雄教 先生



《不登校の定義》

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、学校に登校しない、あるいはしたくともできない状況にある児童生徒で、年間に30日以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由によるものを除いた状態。

《不登校の肯定的側面と否定的側面》

否定的

- ・集団との関わりが減る・大人との関わり・他者の意見・孤立感・学校と自分の学習進度がズレる・行かなくてはという罪悪感・小学生の不登校⇒仕事に行けない・離れられない・学習の遅れ・人間関係の課題

肯定的

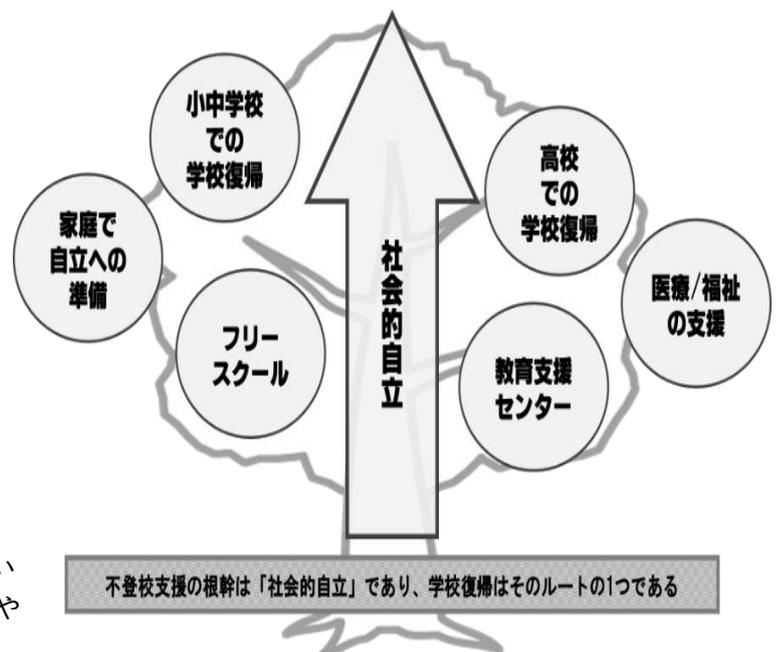
- ・家への安心感・興味の深掘りができる
- ・考える自分を見つめる時間
- ・自分のペースで学習・時間がゆっくりとれる
- ・無理せずにいられる
- ・自分を肯定的に感じることができる

《不登校支援のゴールは何か?》

社会的自立

=

社会に出るために必要な力を身につける
(義務教育の目的に近い)



※ 学校・教室復帰が不登校支援のゴールではない
社会的自立に向かって成長する過程で、学校復帰や
教室復帰が目標になることも少なくない

《グループワーク》

グループワークの様子

①不登校の否定的・肯定的側面を考える

②なぜ私たちは働き続けるのだろうか？

- ・報酬　・規範意識　・やりがい　・健康
- ・職場内外の人間関係　・平和な環境

③仕事を休みたいときは？

- ・ネガティブな体験　・心身の疲労　・健康問題
- ・公私の切り替え　・不安や緊張　・環境の変化



《関係を築き直すプロセスとしての不登校支援》

- ・不登校支援の第一段階は、不登校の児童生徒との関係性を適切に結び直すこと　良好な関係性に支えられて、次のステップに少しずつ進めるようになっていく
- ・関係性や関わる人の立場や性格によっても関係性の築き方は異なる
- ・「不登校だから〇〇すればいい」というマニュアルは無い　一人の人間として向き合う
- ・不登校は、その児童生徒を取り巻く“属性”の一つとして子どもの全体像を理解する

【支援の6段階】

- 段階Ⅰ：心身の安全が確保されず、何らかの危機にいる段階
- 段階Ⅱ：誰からも侵害されず安心できる場所や時間が必要な段階
- 段階Ⅲ：誰かとの繋がりを感じ、関係を結び直す段階
- 段階Ⅳ：関係性を広げていく段階
- 段階Ⅴ：自分の課題やつまずきのある関係性に向き合う段階
- 段階Ⅵ：途切れた関係性や新しい関係性にチャレンジする段階

《まとめ》

- ・『信頼関係を築くこと』が不登校支援の基礎となる
- ・子どもと穏やかに話ができれば十分な成果
- ・“関係性”を広げることを目的に関わる
- ・ひとりで抱え込まずにチームとして関わる

5. 謝辞 小学校教頭より

「学校に行きたくない」という言葉は学校にとって不本意で一番怖い言葉である。今日のお話は自分自身を見つめ直す良い時間になりました。子どもが迷ってしまった時、大人がタイミングよくいろんな選択肢を用意し、手を差し伸べてあげることが大事になる。藤野先生は日高市の教職員の中で心強い存在で、今までも指導方法に悩むと、藤野先生と繋がりたいとリクエストさせていただいた。これからも教職員だけでなく保護者、地域の方も藤野先生を知っていただき、お力を貸していただきたい。

6. 閉会のことば 小学校PTA会長 矢内様より

藤野先生の雰囲気がとても前向きでポジティブでした。子どもたちの抱えている悩みは計り知れないほどで、打ち明けられた大人は一生懸命に聞いてしまうと思うが、あまり深刻にならず、「どういかなるよ」という姿勢がいいのかと藤野先生から感じた。ぜひ、またこのような貴重なお話を伺える機会を作っていただきたい。

7. 参加者の感想より

- ・とても有意義な時間だった。先生方の生の声も聞け、立場が違っていても目指すところは同じだと感じた。人との関わりが薄れている世の中で、何か機会があれば子どもたちと触れ合える場で楽しい事とか頑張れる事が伝えられれば良いと思っている。大変なこともあるが、先生方が健康で励んでいただけることを願う。(学校運営協議員)
- ・不登校にはデメリットしかないと思っていたが、考え方によってはメリットもあり、いろいろなアプローチの仕方があるなと思った。(PTA)
- ・半年かけても先生の話を知りたいと思うほど、とても楽しく学ぶことができた。(PTA)
- ・とても勉強になった。もっとゆっくりじっくり聞きたかった。不登校の考え方「学校行くことがゴールではない」がやはり…と。それと同時に学校の魅力(保護要因)を増やすことを怠らず、子どもの気持ちを想像することを忘れてはいけないと思った。(教員)